すみだ区議会だより

# SUMIDA

City Assembly News

2026
11.6
No.249



墨田区議会議員探訪

## 江戸東京博物館とすみだ北斎美術館を巡る



## 芸術で広がる文化の連携

芸術や文化を通じて、世代や立場を超えた交流が生まれています。
人とまちをつなぎ、すみだの新しい魅力を育てる文化の連携が、
今、広がっています。



安心と豊かな暮らしへ、区議会の最新動向

## 9月議会のハイライト



～区議会広報に仲間入り！
これからなんて呼ぶ？～

## すみだ区議会キャラクター名 皆様の投票で決定します！





墨田区議会
議員探訪

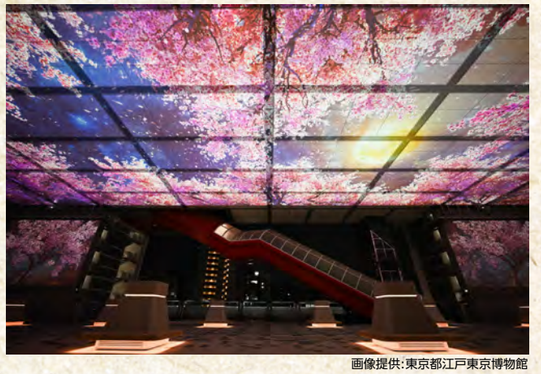
# 江戸東京博物館と すみだ北斎美術館を巡る



## 芸術で広がる文化の連携

今年3月、リニューアルオープンした江戸東京博物館。新たな展示では、
デジタル技術を活用したコンテンツや、実際に触れて楽しめる体験型の展示が
充実しています。今回、8名の区議会議員が館内を訪問。
生まれ変わった博物館の魅力を、実際の展示を体験しながらご紹介します。





画像提供:東京都江戸東京博物館

## リニューアルして江戸東京の歴史がより身近に

今年3月、大規模なリニューアルを経て生まれ変わった江戸東京博物館。その最大のハイライトは、訪れる人を出迎えるエントランスの劇的な変化です。

西側1階からエントランスへ続く新たなアプローチには、印象的な鳥居状のフレームが連なり、その柱にはデジタルサイネージが施されています。鳥居をくぐりながら進むにつれ、映像は現代の街並みからゆっくりと江戸の風景へと変化。取材に訪れた議員たちも、まるで時を遡るかのような感覚に包まれながら館内へと引き込まれていきました。

今回の空間デザインを手掛けたのは、世界的に活躍する建築事務所OMAのパートナー・重松象平氏です。無機質になりがちだった建築に新たな息吹を吹き込み、建物内外を滑らかにつなぐ工夫が凝らされています。

夜間開館時には、約4,000平米に及ぶ広大なピロティの天井と柱に、館の収蔵品や江戸東京のイマーシブ映像がダイナミックに投影され、博物館の魅力があふれ出します。さらに館内に一歩足を踏み入れると、横幅原寸大で再現された日本橋の上には、三方向に広がる空の映像が映し出され、開放感あふれる空間が広がります。

実物資料と最新の映像技術、そして音響演出が融合した新たな展示空間は、一歩足を踏み入れた瞬間から私たちを歴史の旅へと誘ってくれます。





中村座はリニューアルで内部にも入れ、当時の人々と同じ目線で歩けるようになった。中には歌舞伎の鳴り物などが展示されている。





「文明開化東京」エリアにある鹿鳴館のミニチュア。500kgまで耐えられる頑丈なガラス床の下に展示されている。



かつて浅草にあった凌雲閣。日本初のエレベーターの様子を、からくり絵すごろくに触れながら学ぶことができる。





## 江戸の活気と歴史の息吹を五感で体感する

日本橋に立つと、まず中村座の芝居小屋が。さらに東京エリアの顔だった朝野新聞社に代わり服部時計店が見上げるようなスケールで眼前に迫ります。この二つの建物が、江戸から明治へと続く街のダイナミズムを象徴しています。

日本橋を渡り切ると、目の前には大きな白い薄手ののれんが現れます。ここをくぐり抜けることで別の空間に入るという演出が施されており、一気に視界が開けた先には寛永の町人地をはじめとする精巧な江戸の模型世界が広がっていました。ミニチュアの町人たちはどれも表情が違い、一つひとつに物語があり、当時の暮らしがよく分かるようになっています。

さらに以前から人気の高い大名駕籠などの体験展示もアップデートされています。今回は担ぎ手を聴覚に頼らず視覚的に理解できるよう、音のない解説映像が新たに用意されました。こうした映像演出は館内全体で強化されています。体験展示「棒手振の売り物(複製)」などを、議員たちも実際に担ぎ、映像を参考にしながら当時の行商の工夫や暮らしの熱気を体感していました。

## 時代の広がりと人々の暮らしを深掘りしていく

江戸から近現代へと続く展示エリアでは、時代ごとの暮らしの移り変わりをダイナミックに体感できます。

ガラス張りの床下に設置された鹿鳴館のからくり模型は、時間が来ると屋根が開き、華やかな舞踏会の様子が現れるダイナミックな仕掛けが特徴です。また、産物の模型に手をかざすことで江戸の物流や経済の仕組みを直感的に理解できる「江戸地廻り経済圏」のインタラクティブな模型など、趣向を凝らした展示の数々は大人にとっても深い発見を与えてくれます。

さらに展示の終盤では、昭和初期に建てられた同潤会アパートメントの部屋が、当時の詳細な記録に基づいて電化製品や生活用品に至るまで忠実に再現されています。その隣にある「現代の東京」エリアでは、年代別に流行ったものや当時の給食などの展示があり、議員たちの間でもそれぞれの子ども時代を振り返りながら、思い出話に花が咲く一幕もありました。

高度経済成長期から2010年代に至る現代東京の歩みを紹介する立体年表まで、身近な歴史と街の広がりを多面的に学べる空間となっています。

# 両国の歴史が紡ぐ物語




1時間ごとに服部時計店の鐘が響く演出も。当時の鐘の音が残っていなかったため、一番近い年代で残っている札幌市時計台の鐘の音を使用している。





（左）昭和30年代のひばりが丘団地を精巧に再現。ダイニングキッチンや当時の家電製品などを見学できる。
（右）戦後の人々の暮らしを大きく変えた自動車。のちに「てんとう虫」と呼ばれたスバル360を前に、当時の思い出や時代の歩みに思いを馳せる場面も。



「現代の東京」エリアでは1960年代から2010年代までを展示。各時代の展示品を前に、当時の思い出を懐かしそうに語り合う姿が見られた。

## 誰にでも開かれた環境と文化でつながる豊かなまちへ

誰もが利用しやすい開かれた環境づくりも、今回のリニューアルの大きな特徴です。館内では常設展示室の撮影が基本的に可能となっており、13言語の展示解説が用意され、来館者がスマートフォンでコードを読み取ることで、ご自身で解説を楽しめるよう配慮されています。さらに「やさしい日本語」のガイドマップも用意され、海外からの来館者や多文化な地域住民にとっても親しみやすい環境が整えられています。
また、7階の見晴らしの良いフロアにある図書室も拡充されました。小中学生向けの調べ学習本や歴史漫画から専門書まで幅広くそろっており、地域の児童生徒にとっても貴重な学びと憩いの場となっています。
両国周辺は、すみだ北斎美術館や刀剣博物館などが集積する東京屈指の文化エリアです。北斎の作品を中心にしたすみだ北斎美術館と、江戸東京の歴史を総合的に紹介する江戸東京博物館が、それぞれの専門性や強みを生かして協力し合うことで、地域全体の文化の魅力がより一層引き立ちます。両国駅から路地を抜け、各施設を巡る人の流れも着実に広がっており、歴史と文化を軸とした魅力的なまちづくりへの期待が高まっています。



参加議員（奥から）桜井 浩之、井上 ノエミ、はねだ 福代、しもむら 緑、高橋 正利、坂井 ユカコ、堀 よしあき、おまた 雄一



画像提供：東京都江戸東京博物館

### 東京都江戸東京博物館

江戸・東京の歴史と文化を体感できる総合博物館。原寸大模型や最新デジタル演出、実際に触れられる体験展示により、時空を超えて歴史の旅を楽しめるスポット。

墨田区横網1-4-1
開館時間：9:30～17:30（土曜9:30～19:30）
入館は閉館の30分前まで
休館日：毎週月曜（月曜が祝日または振替休日の場合はその翌日）、年末年始
公式WEB：https://www.edo-tokyo-museum.or.jp
※展示品は時期によって変更になることがあります。



# 芸術で広がる文化の連携



## 葛飾北斎の生誕地・すみだから世界へ
# すみだ北斎美術館の歩み

今年で開館10周年を迎えるすみだ北斎美術館。生涯の多くをすみだで過ごした北斎ゆかりの地で、名作の数々や地域との深いつながりを発信しています。議員たちが訪れ、その魅力を体感したようすをご紹介します。



### 生誕の地で触れる 北斎の情熱と多彩な世界

本所南割下水付近で生まれ、隅田川東側のこの地に強いゆかりを持つ葛飾北斎。館内の『北斎を学ぶ部屋』に入ると、タッチパネルで墨田区と北斎の歴史的なつながりを学べるスペースが広がり、議員たちも熱心に解説に耳を傾けました。
「90歳になっても『もっと絵が上手くなりたい』と挑み続けた貪欲な情熱こそが、北斎の魅力です」と施設職員が語るとおり、展示室には牛嶋神社に奉納された晩年の大作「須佐之男命厄神退治之図」（推定復元）やデジタル展示、浮世絵の高精細なレプリカ作品などが並びます。リアルなアトリエ模型も相まって、生涯を通じて挑戦を重ねた北斎の足跡が鮮やかに浮き彫りになります。
こうして作品保護のために公開制限を守りながらも、オリジナル作品を展覧する企画展やデジタル展示を工夫し、その魅力を届けてきました。近年は日によっては、来館者の多くを海外からの観光客が占めるなど、世界的な文化拠点としてもにぎわいを見せています。





### 地域とともに歩み 未来へ広がる文化の拠点

すみだ北斎美術館では墨田区の学校への出前授業や児童の作品展示など、地域の子どもたちへ向けた取組にも注力しています。「有名作品だけでなく多様な魅力に触れてもらい、区民の皆様に広く親しまれる場所にしたい」と、未来を担う世代への想いを施設職員が明かします。
歴史を総合的に体験できる「江戸東京博物館」と、専門的な美を深く味わえる「すみだ北斎美術館」。互いの強みを生かし、イベントや作品の貸し借りなどで連携を深めることで、両国のまち全体に豊かな回遊性と新たな魅力が広がっています。




すみだ北斎美術館では、11月23日までの間、開館10周年を記念した特別展「ベスト オブ すみだ北斎美術館－隅田川両岸景色図巻と名品－」が開催されています。約100年ぶりに里帰りした全長約７メートルの肉筆画「隅田川両岸景色図巻」をはじめ、同館が誇る多彩なコレクションや未公開作品などが一堂に展示されています。



撮影：尾藤陽介

### すみだ北斎美術館

アルミパネルで覆われた特徴的かつ斬新な外観を持つ建築は日本を代表する世界的な建築家、妹島和世氏による設計。世界的に知られる名作の数々や地域との深いゆかりを、詳細な展示や最新のデジタルコンテンツを通して深く学べる。

墨田区亀沢2-７-2
開館時間：9:30～17:30（入館は閉館の30分前まで）
休館日：毎週月曜（月曜が祝日または振替休日の場合はその翌平日）、年末年始
※上記以外にも臨時閉館あるいは休館する場合もあり
公式WEB：https://hokusai-museum.jp/
※展示品は時期によって変更になることがあります。

※表紙で紹介した作品
表紙左下：葛飾北斎「富嶽三十六景　神奈川沖浪裏」すみだ北斎美術館蔵
表紙右下：葛飾北斎「富嶽三十六景　凱風快晴」すみだ北斎美術館蔵
画像提供：すみだ北斎美術館

安心と豊かな暮らしへ、区議会の最新動向

# 9月議会のハイライト

区民の皆様の暮らしを守る9月議会での議論をまとめました。毎日の生活に関わる重要議案がどのように審議・決定されたのか、分かりやすく解説します。
墨田区の「今」と「これから」が分かるハイライトをぜひご一読ください。





**9月8日～10日**
**本会議**

### 代表質問・一般質問
- 13名の議員が区長・教育長に質問しました。

### 議案の審議等
- 議員提出議案1件について、議会としての可否を決定しました。

### 委員会付託
- 区長提出議案11件、陳情1件について、各常任委員会で審査することを決定しました。



**9月15日～17日・24日**
**常任委員会**
（子ども文教・地域産業都市・区民福祉・企画総務）

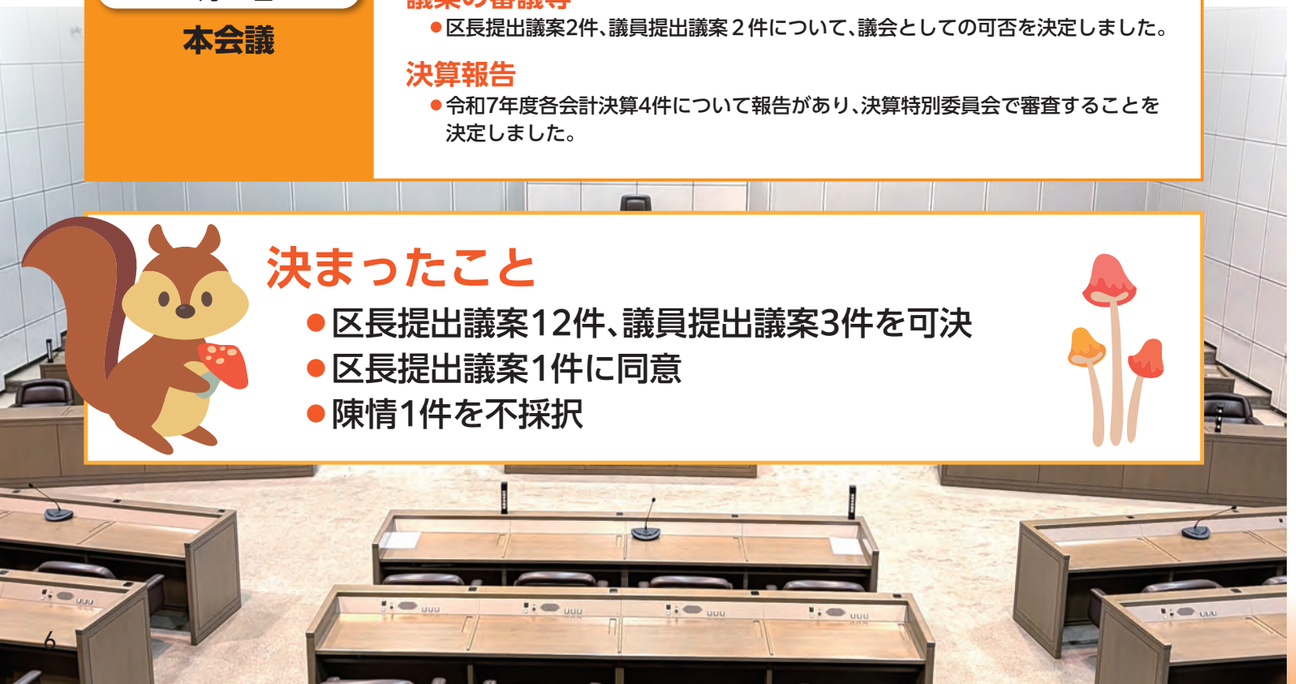
### 議案の審査等
- 議案・陳情について、質疑等を行い、委員会としての可否を決定しました。
- 区で進行中の事業の進み具合等について、報告を受けました。

**9月29日**
**本会議**

### 議案の採決
- 各常任委員会から審査結果が報告され、議案・陳情について、議会としての可否を決定しました。

### 議案の審議等
- 区長提出議案2件、議員提出議案２件について、議会としての可否を決定しました。

### 決算報告
- 令和7年度各会計決算4件について報告があり、決算特別委員会で審査することを決定しました。





## 決まったこと

- 区長提出議案12件、議員提出議案3件を可決
- 区長提出議案1件に同意
- 陳情1件を不採択





# 私たちの暮らしはどう変わる？

## 9月議会の決定事項がもたらす未来

9月議会で可決された条例や予算は、私たちの日常生活にどのような変化をもたらすのでしょうか。
区民の皆様の暮らしに直結する主な変更点を分かりやすく、ひも解いて解説します。

### 総合的ながん対策事業費に950万円を追加（令和８年度墨田区一般会計補正予算（第５号））



ウィッグ等購入費用助成補助金について、制度拡充に伴う申請件数の増加により予算に不足が見込まれるため、予算を増額

ここが聞きたい

**Q 制度設計が変わったということだが、詳細は？**

A これまでがん患者というところに特化していたが、今回については、例えば疾病、外傷を含めたアピアランス（外見）というところにも拡充されている。

**Q 生涯に２回活用できることになったので、昨年度までにこれを活用した方も、もう1回利用できるということを周知する必要があるのでは？**

A 回数についてはウェブサイトなどでも周知をしているが、改めて周知方法についても充実した形で皆さんにお伝えできるよう考えていきたい。

こんな意見も　拡充されたということだけでも大きな第一歩だが、対象外の人から「私たちも同じような状況なのに」という声も上がってくると思うので、基礎自治体として引き続き声を聞いていってほしい。

### 災害備蓄用の物品の買入れ

災害備蓄用として、排便収納袋セット、災害用携帯トイレ、災害用マンホール対応型簡易水洗式トイレ（専用テントを含む。）を購入

ここが聞きたい



**Q 避難所に指定されている学校のマンホールトイレは、全てこの水洗式になるのか？**

A 学校には平均５個程度のマンホールトイレがあり、今回、３個ずつ水洗型が付く。残り２個については、置き場所等の問題もあるので、来年に向けて検討している。

**Q 避難所の防犯面でも、トイレ用のテントにオートロックが掛かるような設備の購入を検討してはどうか？**

A 区で用意しているトイレのテントにもファスナーは付いているが、そこに鍵を付けるのか、目隠しをするのかなど、いろいろな手段があると思うので、今後の検討課題としたい。



# 代表質問



2人の議員が会派を代表して登壇し、区民の声を代弁して区長・教育長に質問しました。



自由民主党
## 稲葉 かずひろ

動画で見たい方はこちら!

### 民泊に関する取組について

**Q** 民泊開業前の住民説明は非常に重要だが、戸別訪問では不在などにより説明が行き届かない場合がある。「住民説明会の開催」の必須化を早急に条例に追加することを求める。また、住民説明や申請が適切になされているかを確認することにより、虚偽の申請を行う悪質な事業者対策になると考える。開業申請時における士業の活用も検討すべき。

**A** 住民説明の在り方等について、区民の皆さんから様々な意見をいただいており、課題として認識していることから、説明会の必須化に係る条例改正に向けて、具体的な検討に着手していく。士業の活用については、住宅宿泊事業に係る課題解決に向けてどのような連携ができるのか、併せて検討していきたい。

### 町会・自治会の担い手不足対策について

**Q** 区は新たな地域力育成・支援計画の策定を進めているが、理念の整理だけで終わらせず、町会・自治会の事務負担軽減、デジタル化、若手人材の育成、マンションとの接続、活動拠点の確保など、実行可能な具体策を盛り込むべき。

**A** 加入促進マニュアルの作成など様々な支援策を講じている。また、効果的な情報発信も町会・自治会活動に参加するきっかけとなることから、広報誌作成のための助成金などによる支援を行っている。今後は、町会・自治会活動における事務の負担軽減を目指し、AIを含めたデジタル活用の講座等も実施するなど、支援を充実していく。



公明党
## おまた 雄一

動画で見たい方はこちら!

### 猛暑期の避難所における熱中症対策について

**Q** 学校校舎に設置されている太陽光パネルは環境教育用で設置規模が小さく、蓄電装置もないため災害時の非常用電源機能はない。学校以外の避難拠点となる公共施設にも太陽光発電は未設置と聞いている。非常用電源だけでなく、平時の電気代節約の観点からも太陽光発電と蓄電装置をセットで計画的に整備すべき。

**A** 区有施設における太陽光発電設備等の導入可能性調査を実施しており、今後、調査結果を基に、各施設の状況や、導入手法等を総合的に勘案し、導入に向けて取り組んでいく。

### 単身高齢者の食支援について

**Q** TOKYO長寿ふれあい食堂推進事業の活用について、どのように再検討してきたのか。活用したいという団体には会場確保、担い手募集等を一体的に支援すべき。また、地域別に会食の場を把握した上で、不足する地域に週1回程度のモデル事業を実施すべき。

**A** TOKYO長寿ふれあい食堂推進事業の活用については、自主グループ等の活動状況の把握を行ってきたが、対象要件に合わず活用できていない。一体的な支援については、他自治体の取組状況などを踏まえ検討していく。モデル事業の実施については、多様な主体が連携しながら取組を行っているので、状況を確認しながら、社会福祉協議会等とも連携し、地域資源の輪が広がる更なる取組を検討していく。



# 一般質問

今回は11人の議員が登壇し、区民の声を代弁して区長・教育長に質問しました。

※は12ページで用語の解説をしています





すみだ未来フォーラム
## あべ きみこ

動画で見たい方はこちら!

### すみだ版終活情報登録制度の創設について

**Q** 横須賀市の「わたしの終活登録」のように、元気なうちから本人の希望に基づき、緊急連絡先、かかりつけ医、終末期医療に関する意思、エンディングノートの保管場所などの情報を登録し、必要な時に関係機関につなげる「すみだ版終活情報登録制度」を創設してはどうか。

**A** 終活情報登録制度については、これまで、他の先行自治体の調査等を行い、事業実施や関係機関との連携体制について、社会福祉協議会と検討してきた。現在、事業の対象要件や役割分担等について調整を行っており、引き続き、具体的な事業内容の検討を進め、来年度中の事業開始を目指したいと考えている。



日本共産党
## 村本 ひろや

動画で見たい方はこちら!

### 墨田区の住宅施策の抜本的見直しについて

**Q** 異常な家賃や不動産価格の高騰を招いている再開発は抜本的に見直し、これ以上の高騰が起きないようにすべき。家賃補助制度を実現するとともに、再開発ではなく家賃の安い公的住宅を多く建設し、住居費の負担軽減を図るべき。

**A** 家賃補助制度の創設については、現時点で実施する考えはないが、住宅困窮者への家賃負担の軽減策として、すみだセーフティネット住宅※事業により、引き続き家主への家賃低廉化補助等を行っていく。また、公的住宅の増設は、都営住宅の移管等について都と協議を進めており、引き続きその確保に努めていく。



日本共産党
## 山下 ひろみ

動画で見たい方はこちら!

### 子どもやDV被害者を守るための支援について

**Q** 区の養育費等支援事業は、養育費を取り決めるまでの支援にとどまっており、実際の支払に至るまでの支援は十分にできていない。兵庫県明石市が実施している養育費の立替え支援のような先進的な施策を積極的に実施していくべきではないか。

**A** 養育費の履行確保に向けて、取決めの段階から養育費等支援事業において公正証書等作成に係る費用、養育費保証契約の保証費用等の補助を行うなど、適正な支援を行っていると認識しているので、立替え支援事業の実施について、現時点では考えていない。引き続き、養育費等の履行確保に向けて支援していく。